

遺物 (昔の道具など)



縄文時代早期(約8,000年前)の土器。刻んだ棒を転がして文様をつけた「押型文土器」です。煙道付炉穴から出土。



縄文時代中期(約5,000年前)の土器。鉢の一部分です。



縄文時代後期(約4,000年前)とみられる土器。刻み目のある石のおもり(右)も一緒に出土しました。



弥生時代中期(約2,000年前)の土器。壺の口から首の部分です。



わんがた てっさい かじ
椀形の鉄滓。鍛冶を行う時の炉の底にたまる鉄のかすのようなものです。古代の竪穴住居から出土しました。



といし ふいごはぐち
砥石(左)と鞆羽口の一部(右)。どちらも鍛冶と関連するものです。古代の竪穴住居と大きな穴から出土しました。

調査の成果

はじめに 中野山遺跡は四日市市北山町の丘陵上にある遺跡です。昨年度から発掘調査が行われ、これまでに、弥生時代中期(約2,000年前)の土器や飛鳥時代(約1,400年前)の竪穴住居・掘立柱建物などの跡が見つかっています。今回の調査では、これらの建物がどこまで広がっているか、また、古代朝明郡大金郷との関わりから、鉄などの金属に関する遺構や遺物の確認を主眼において行いました。

調査の成果 これまでの調査では知られていなかった、縄文時代の遺構と遺物を確認できたことは大きな成果といえます。とくに、縄文時代早期(約8,000年前)の煙道付炉穴と集石炉は、東隣りの第4次調査区のものと同わせると、30基以上見つかり、この時期の炉穴としては、県内でもっとも多い調査事例となりました。また、数は少ないですが、中期や後期の遺構・遺物も確認されました。この地が様々な時代に利用され、活動の場となっていたことが分かります。

古代においては、飛鳥時代(約1,400年前)の建物跡がいくつかのまとまりをもって建てられていることが、今回の調査で、より明確になりました。古代の竪穴住居は東に隣接する北山A遺跡やこれまでの調査で分かっているものを合わせると40基以上になり、丘陵の広い範囲に広がっていることが分かります。これらの竪穴住居から出土した遺物は、飛鳥時代のもものがほとんどですが、北山A遺跡では少量ですが奈良時代(約1,300年前)の遺物も出土しています。時代が変わるにつれて人々の生活の場も少しずつ移動していった感じが感じられます。また、今回の調査では椀形鉄滓や鞆羽口が数点ですが見つかりました。これらは鍛冶炉の存在を示すもので、大金郷との関係を考えるうえで貴重な発見といえるものです。

中野山遺跡 第3次発掘調査 現地説明会資料 (東海環状自動車道発掘調査だよりNo.4)

三重県埋蔵文化財センター 〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川 503

TEL:0596-52-1732 / FAX:0596-52-7035 <http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/maibun/>

四日市整理所 〒512-8064 三重県四日市市伊坂町 126-1

TEL:059-363-3196 / FAX:059-363-3196

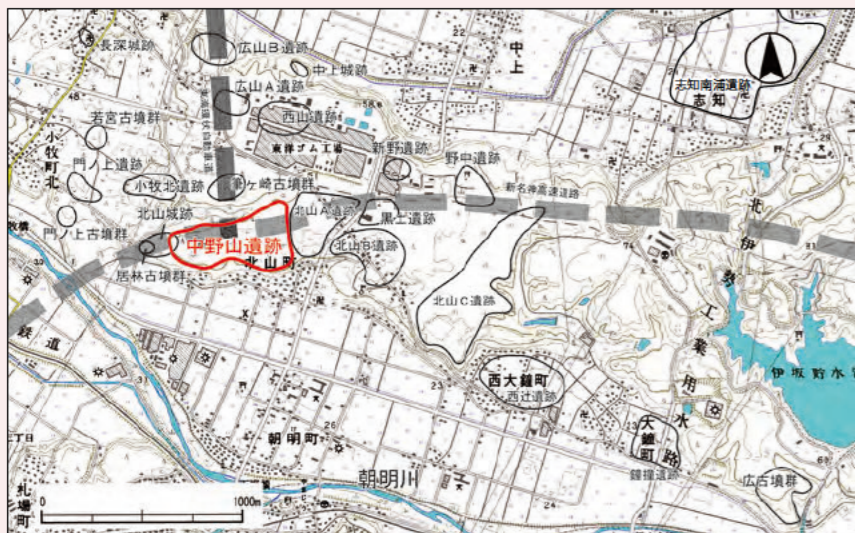
2011年10月2日

中野山遺跡

第3次発掘調査 現地説明会資料



2011年10月2日
三重県埋蔵文化財センター



朝明川と員弁川の間位置する丘陵では、これまでに、たくさんの遺跡が見つかりました。丘陵の下の朝明川沿いの平地には、今のところ、遺跡は見つかりませんが、員弁川沿いでは、志知南浦遺跡で、縄文時代のお墓などがみつかりました。今後、朝明川沿いの平地でも遺跡が見つかるかもしれません。

また、この地域は、「大鐘」という地名が残ることなどから、古代朝明郡の大金郷のあったところではないかと考えられています。

今回の調査では古代だけではなく、縄文時代の遺構(生活の跡)もたくさん見つかりました。



縄文時代の炉穴。もともとはトンネル状に作られていたようですが、天井部分は崩れ落ちていました。



たくさんの石が入られている炉穴。左の写真の炉穴とは作り方の違うものです。真っ赤に焼けた石も見えます。



上にあった石を取り除くと、穴の底には、大きめの石が並べられていました。

縄文時代の遺構



残りの良い炉穴。断面を見ると、トンネル状に焼けていることがよく分かります。



縄文土器(後期?)の出土した穴



今回、見つかった縄文時代の炉穴は、形や特徴の違う2種類があります。ひとつは、細長くトンネル状に作られた「煙道付炉穴」と呼ばれるもので、比較的集中して9基が見つかりました。もうひとつは、穴の中にたくさんの焼け石の入れられた「集石炉」などと呼ばれるもので、「煙道付炉穴」に比べると、分散して8基が見つかりました。

古代の遺構は、大まかに分けると、竪穴住居・掘立柱建物・大きな穴の3種類があります。このうち、大きな穴は、形や規模が定まっておらず、柱の位置も明確ではありませんが、底が比較的平らになっていることや、土器などの出土数の少ないことから、単なるゴミ穴でないことは明らかで、どのような目的で作られたものか、今後、検討していく必要があります。

また、古代の建物は、集中する所と、そうでない所がみられ、当時の土地の利用やムラの様子を知るうえで、注目されます。

古代の遺構

1:500 40m

今回の第3次調査は、東海環状自動車道の建設に伴うもので、ジャンクション建設予定地内の2か所(合計7,560㎡)を調査しています。調査は平成23年4月25日から始まり、11月まで行う予定です。



昨年度の調査で見つかった掘立柱建物。



建物が重なっていることから、建て替えが行われたことが分かります。左の壁ぎわには大きな穴もみられます。



指さしているところはカマドの跡です。建物の真ん中に穴が作られています。

おもな遺構の時代と種類

縄文時代	竪穴住居	■
	炉穴・穴	■
弥生時代	穴	■
古代 (飛鳥~奈良時代)	竪穴住居	■
	掘立柱建物	■
	大きな穴	■
中世	火葬穴	■